

一橋大学学問史刊行にあたって

一橋大学長 種 瀬 茂

昭和五十年（一九七五年）に一橋大学は創立百年を迎え、種々の記念行事を進めてきた。学園史編集の事業もその重要な一環であり、その作業は、「学問史」および「学制史資料」集の編集・刊行であり、それは今なお作業が進められている。そして昭和六十年度からは一橋大学百年の通史の刊行計画が定められて、執筆等が始められた。この「学問史」はこれらの作業の重要な一部として計画され、昭和五十七年には仮とじの大冊として印刷されたもので、今回それを補正して刊行されることとなったものである。

一橋の百年史は明治以降の日本近代化の百年と一体をなしている。この過程における幾多の歴史的変転をこえて、日本の近代諸科学が形成されてきた。主として社会科学・人文科学の分野における日本の学問発展の姿を本書の中に学ぶことができる。

それは一橋の学問研究における次の二点の特徴によっていえるといえよう。第一に、この百年のわが国の歴史的発展のそれぞれの時代に、本学の先輩諸先生が、主として欧米の近代科学を適格に学びとり、自らのものとして体得し、わが国の学界において先駆的役割を担い、学界水準の向上に大きな貢献をはたされてきたことである。諸先学の辛苦の努力の結晶を、この「学問史」はいきいきと伝えている。

そして第二に、本学が社会科学の総合大学として形成されてきたことが、本書によって明らかである。商学、経済学、法学、社会・歴史学、一般教育と分類されているが、含まれている学問分野は、実学とアカデミズムとの統合、社会科学・人文科学・関連深い自然科学との総合として、ふさわしい諸分野の総合を目標しての発展が進められていることを、「学問史」は語っているといえよう。

第二次大戦後四十年を経て、世界も日本も歴史的变化の時を迎えているといえよう。一橋学問史百年の伝統の成果をふまえて、いっそう自由闊達に学問の展開を進める課題に迫られている。そのときにあたってこの「学問史」は数多くの宝を秘めた宝庫といつてよいであろう。

末筆ながら、この「学問史」をはじめとする一橋学園史編集の事業は、一橋大学創立百年記念事業募金による諸事業の一環として進められてきたし、また現在も進められつつある。同募金会および諸先輩の御支援に対し厚く感謝の意を表す。またこれらの学園史の執筆・編集に多大の努力をつくされておられる諸氏に厚く御礼申し上げる。

昭和六十一年一月